

コロナ禍で私たちの生活は一変しました。昨年度、学校は二か月間の臨時休校を余儀なくされました。当初はただの休みだと勘違いして喜んでいた児童・生徒たちも、家にいて友達と会うことができないストレスや学べないことの不安を抱くようになりました。保護者も勉強の遅れを心配し、学校の大切さを再認識したことと思います。多くの先生方はオンラインでの授業を模索し、40人の生徒を相手に行っていた講義型の授業から生徒に考えさせる授業へと転換を図りました。学校もそれまで言い続けてきた「さあ、みんなで集まろう」「みんな、仲良く頑張ろう」といった当たり前の価値観が揺るがされ、再開後も授業、行事、部活動などにさまざまな制約が生じています。

予測不能な世の中だと言われます。変異ウイルスの影響は大きく、蔓延防止等特別措置の効果も目に見えず、感染者が増加、三度目の緊急事態宣言発出、それもまた延期、一般の人へのワクチン接種も遅れています。だからと言って手をこまねいて傍観するのではなく、先が見通せない、何が起こるかわからない時代だからこそ、なすべきことがたくさんあると考えなければなりません。対応力が問われる世の中であることに間違いありません。予測できなかった課題を解決するためには、的確に状況を把握する力、適用可能な知識、活用しようとする態度、活用できる能力の獲得が必要です。

英語に"Easy come, easy go." という諺があります。日本語では「悪銭身に付かず」または「簡単に得たものは、簡単に失われる」という意味です。勉強にも当てはまります。今や、誰もがスマホを持っていて、わからないことがあれば、その場で検索することができます。でも、すぐに得た知識は、すぐに消えてしまいます。わからないことを調べる、人に聞くということは大切なことです。しかし、簡単に答えを得た一方で、本質を考える、自分で考えるという作業を怠ってはいないでしょうか。わからないことはすぐ人に聞いて、記憶することもない、コピペのような作業になっていませんか。知識は他の人が考えた結果です。その考え抜かれた過程を考慮せずに、答えだけを覚えることは表面的な知識でしかなく、いざ別の問題に出くわした時に応用することができません。

今、改めて学びの意義が問われ、自ら探究する力が求められる中、今日も多くの学友たちが、自習室や職員室前等で勉強しています。誰に言われたのでもなく自ら主体的に取り組んでいるからこそ継続することができるのです。じっくりと考えて、時間をかけて知識を積み重ね、ここは敢えて苦労することを選んで、使える知識、骨太の学力を身に付けてほしいと願っています。結果は必ず付いてくると信じています。

Don't be a parrot in life, be an eagle. A parrot talks way too much and can't fly high but an eagle is silent and has the will power to touch the sky!

*Touch the Sky! TOYOTAMA!*